



香住鶴株式会社 醸造部 松本幸也さん 佐藤良介さん (香美町)

「酒造りを極めたい」但馬に来た蔵人たち

但馬への
来訪者
03



まつもと・たつやさん(左)
さとう・りょうすけさん(右)
ともに大学卒業後、香住鶴株式
会社(旧香住酒造有限公司)に入
社し、現在香美町に在住。蔵人
として酒造りに従事している。

香美町香住区、矢田川が流れるのどかな田園風景にある香住鶴の酒蔵。12年前、杜氏(とうし)を志してやってきた若い二人は、駅に降りた瞬間、一面に広がる青々とした田んぼに清々しさを感じた。冬はうつつかわつて真っ白に覆われる豪雪地帯。最初の年こそ珍しかったものの、翌年から雪が嫌いになった。

大阪府出身の松本幸也さんと千葉県出身の佐藤良介さんは、来年度入社14年目を迎える香住鶴の蔵人。同期入社二人は、共に大学卒業と同時に香美町(旧香住町)に移り住んだ。

松本さんは就職活動中に酒造業を知り、「ものづくりをやってみよう」と一念発起。佐藤さんは、大学で伝



統芸能に関わっていたことから、日本の伝統を受け継ぐ仕事がしたいと考えていた。

元々、農家の冬場の出稼ぎ労働で支えられてきた酒造り。2人が就職活動をしてきた当時は、蔵人を社員として年間雇用する酒蔵は全国的にもほとんどなかった。



出来たての酒が垂れ坪にたまっていく様子は、何度見ても感動するそう。

江戸時代創業の香住鶴が後継者育成のため、社員としての蔵人募集を始めた年、偶然会社案内を手にした二人は、初めての「社員蔵人」として迎えられた。

蔵入りは毎年10月初旬。以降、蔵人たちは翌年の4月中頃までほとんど休むことなく酒造りに没頭する。底冷えする冬の蔵。まだ暗いうちから、蔵人たちの一日は始まる。

「当初は言葉が分からず苦労しました」とは、佐藤さん。「こぼん」が

「それでも、辞めたいと思っただことはないんです」と、松本さん。入社して初めてできた酒は、それまでに見たことのない色と味だったと、今もその感動を胸に刻んでいる。

慣れない土地での暮らしは、会社の支援にも助けられた。二人が入社した年、寮を新築するなど全面的なサポートがあり、そのおかげで続けられたとも二人は話す。酒造りが一人ではできない。蔵人たちも会社も強い信頼関係で繋がっている。現在は家族を持ち、但馬の暮らしがすっかり定着している二人。

「まだまだ経験を積んで、いい酒を造りたい」と、酒造りへの情熱は今も冷めない。

NPO (特定非営利活動) 法人 ベトナム交流協会

素朴で純情・家族思いのベトナム人女性
心を込めて良縁をお世話致します

親と同居の方・農家の方・漁業の方・酪農の方・高齢の方等問いません

〒669-5311 兵庫県豊岡市日高町日置字矢組22-35 サンロード1F (江原駅前・312号線)

ベトナム交流協会 正会員 富貴 TEL.0796-42-5057 (年中無休)

麦わら細工体験のすすめ



兵庫県伝統的工芸品指定
「麦わら細工」

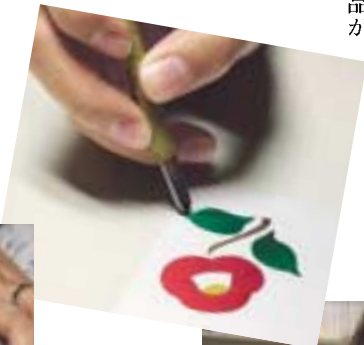
まずは絵柄選びから

今回は絵はがきに挑戦！絵柄を選んだら、あらかじめ加工された麦わらを張っていくだけで簡単。約20分ほど、手軽に麦わら細工が楽しめるのが魅力だ。



模様を入れていこう

伸ばした接着剤を麦わらに付けて、はがきに張っていく。麦わらは繊細なので、大事に扱うことがポイント！失敗しても張り直せるので、肩の力を抜いて気楽にやってみよう。



完成！

最後は美しく仕上げよう

麦わらを張り終えたら、繊維に沿って濡れタオルで余分な接着剤を拭き取る。絵柄に合わせて、ペーパーナイフで筋を付けていき、立体感を出して見た目もきれいにしていく。最後は竹筒でこすって仕上げを。こうすることで、麦わら細工独特の自然のつやが生み出される。

全国でも類を見ない豊岡市・城崎温泉の伝統工芸品「麦わら細工」。すべてが手作りで、鮮やかな色彩と微妙な光沢は芸術品ともいえます。その歴史は古く、江戸中期に鳥取県からきた半七という人が、湯治の手なぐさみに、竹笛に麦わらを張り付けたことが始まりとされています。「城崎文芸館」では、そんな麦わら細工の展示・実演が見られるほか、絵はがき、コマ、竹トシボといった麦わら細工を手軽に体験できます。

「麦わら細工の魅力は、自然のつや。皆さんきれいな言葉ですね。手作業なので、同じ絵柄でも作り手によって違ったものになります。世界に一つだけの作品が作れますよ」とは、指導していただいた大梅さん。元々は冬の内職として培われたという「麦わら細工」。この冬、伝統工芸にふれてみるのはいかがですか。また、「城崎麦わら細工伝承館」では、先人達と現代の匠の作品が多数展示されています。



～城崎文芸館・麦わら細工体験DATA～

*城崎文芸館：大人400円、中高生300円(城崎麦わら細工伝承館との共通券：大人500円、中高生350円)：9～17時(入館は16時30分まで)・毎月最終水曜休館(祝日の場合は翌日)
*麦わら細工体験：材料費300円～・10～15時30分まで

和の女塾 [お手入れアドバイス]いつでもご相談ください

着物美人は
お手入れから

KIMONO SALON KEITANI
きものサロン けいたに

フリーダイヤル **0120-529-008**
〒668-0084 兵庫県豊岡市福田1887-1
電話 0796 (24)9239番
FAX 0796 (24)0185番
mail : kimonosalon@nkansai.net